

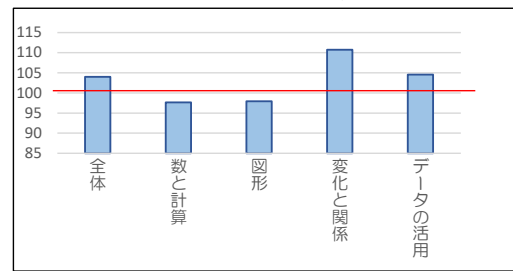
2 算数科の結果

全国の平均正答率と比較してやや高い結果でした。

学習指導要領の領域別の平均正答率の結果

領 域	全国平均との比較
数と計算	ほぼ同様
図形	ほぼ同様
変化と関係	相当高い
データの活用	やや高い

全国平均を100とした場合の本校の正答率



問題形式別の平均正答率の結果

選択式	相当高い
短答式	ほぼ同様
記述式	相当高い

【道教委の分類方法による9段階】

相当高い	・・・7ポイント以上	ほぼ同様	・・・1ポイント以下～3ポイント未満
高い	・・・5ポイント以上7ポイント未満	やや低い	・・・3ポイント以下～5ポイント未満
やや高い	・・・3ポイント以上5ポイント未満	低い	・・・5ポイント以下～7ポイント未満
ほぼ同様（上位）	・・・1ポイント以上3ポイント未満	相当低い	・・・7ポイント以下

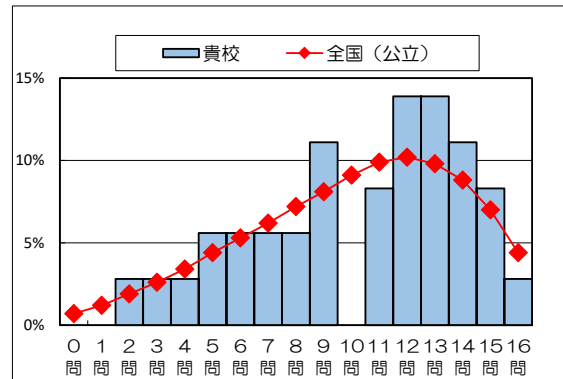
算数全体として

基本的な計算問題の正答率は56%から83%とやや高い結果となりました。さらに図形の性質を理解する問題は80%以上、グラフや表を読み取る問題は64%が正答しています。

一方で、図形の性質を理解する問題でも図形の見せ方、問われ方が変わることによって28%、図形の大小を判断し理由を記述する問題は8%、百分率で示された割合についての理解を問う問題は47%と正答率が低くなりました。

全体として、正答率は全国・全道より高いですが、問われていることを確実に理解し、正答を判断する力の向上が課題であると考えます。

正答した設問数の人数

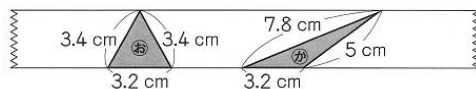


正答率が低かった問題

【全国正答率20.8% 本校正答率8.3%（無回答率8.3%）】

この問題について

- (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

出題の趣旨は、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみることでした。

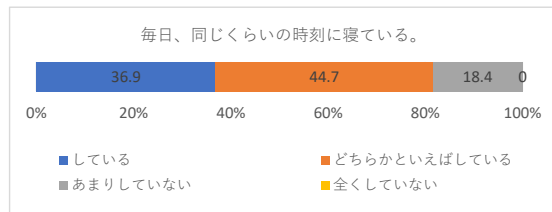
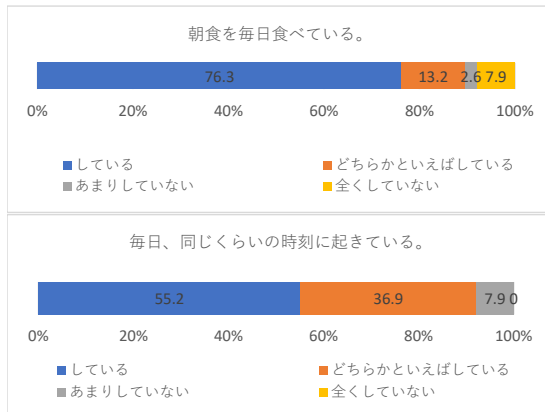
正答は「3」で、理由の模範は、『三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。「お」と「か」の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。「お」と「か」の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、「お」と「か」の面積は等しいです。』でした。全体としては「4」と回答する児童が多く、二つの三角形の底辺の長さが等しいことを捉えることはできていますが、高さについて具体的な長さが示されていないことを理由に、三角形と三角形の面積はこのままでは比べることができないと判断していると考えられます。

この問題の無回答率は8.3%でした。

3 児童質問紙の結果より

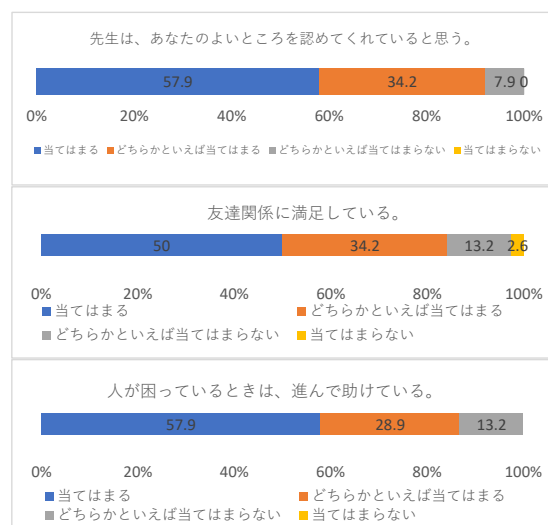
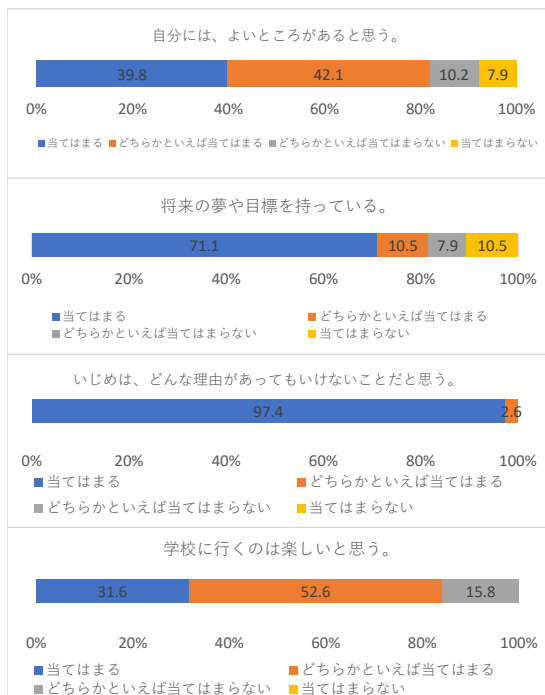
【生活習慣】

「朝食を毎日食べている」と「どちらかといえば食べている」を含めると、ほぼ全国平均と同様の結果となっています。「就寝・起床」についても、ほぼ決まった時刻に行っており全国平均と同様の結果となっています。



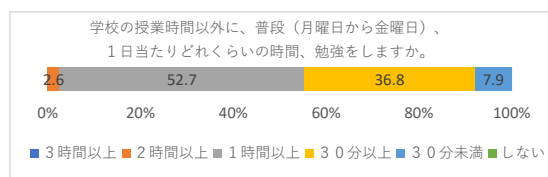
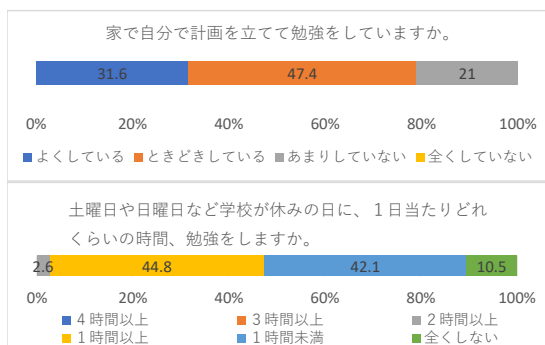
【自分自身や周囲との関係】

「自分によいところがある」が82%、「教師からのよさの承認」が92%、「将来の夢や目標がある」が82%、「友だち関係に満足している」が84%といずれも全国平均とほぼ同様の結果でした。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」という意識は100%でした。一方で、「困っているときは、進んで助ける」は87%で全国平均をやや下回り、「学校に行くのが楽しい」と回答した児童は84%と全国平均と同様でした。



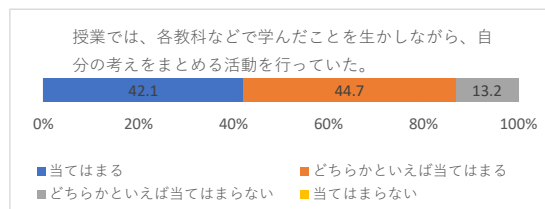
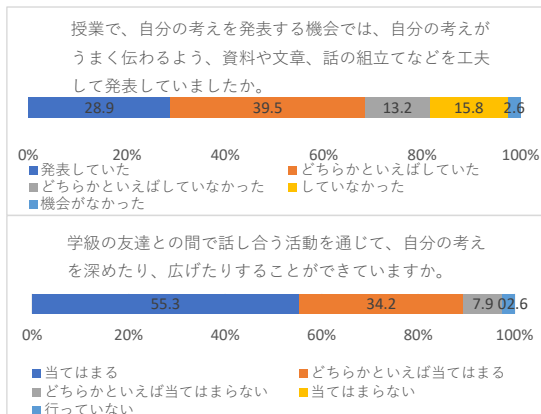
【家庭での学習意欲】

「計画的に家庭学習を行える」児童は全国平均を大きく上回っています。学習時間は、千歳市が推奨している70分（学年×10分+10分=70分）程度である「1時間以上勉強している」と回答した児童が、平日は55%で全国平均とほぼ同様、休日は47%と低く、家庭での学習時間は全国と比較し不足しています。



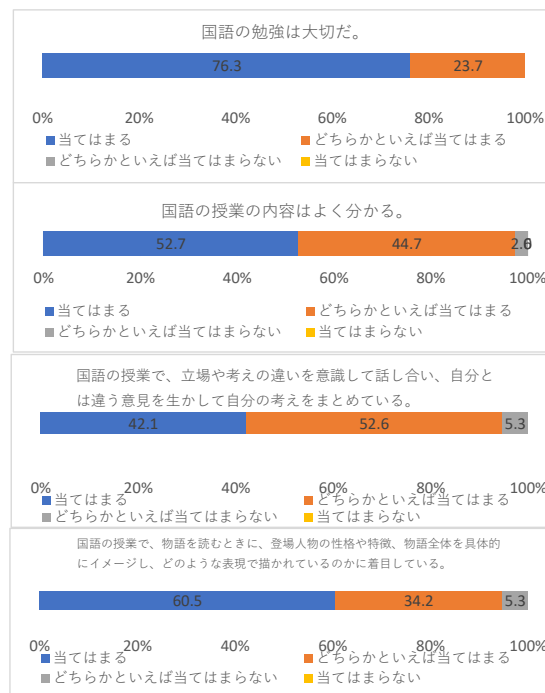
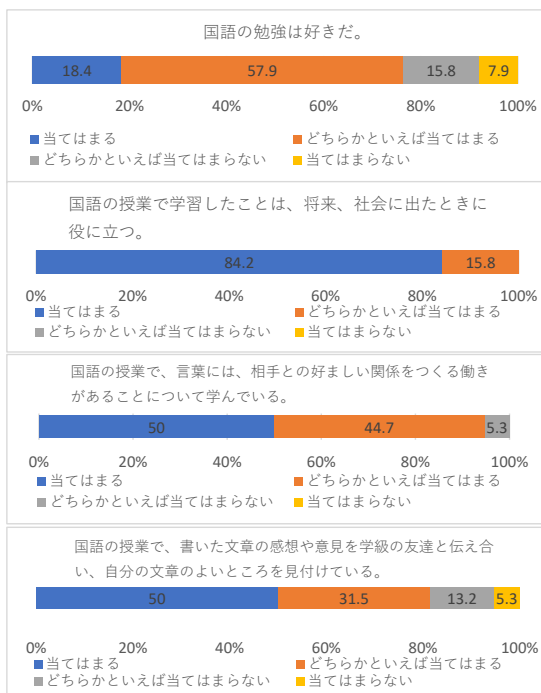
【思考力・表現力の向上をめざした授業】

授業での課題解決を通して、「自分の考えをうまく伝える工夫をした発表をする」活動が68%、「教科で学んだことを生かし考えをまとめる」活動が87%、「友達と話し合いを通じて考えを深める活動で自分の考えを深めたり幅を広げたりすることができた」が90%と回答する児童はそれぞれにおいて全国平均を大きく上回っています。



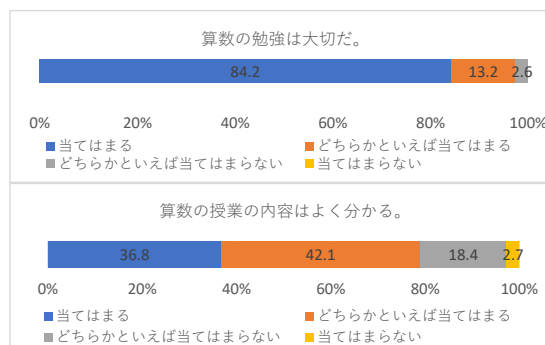
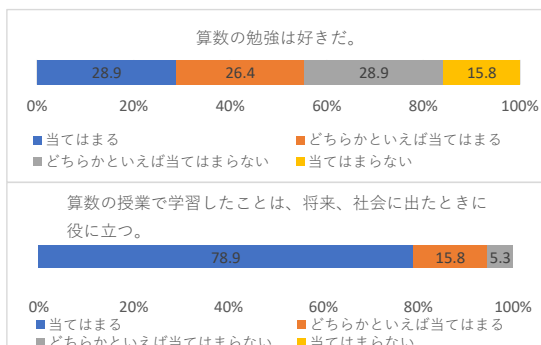
【国語科の学習について】

「国語の勉強が好きだ」と回答する児童は76%、「教科の重要性」は90%が大切だと感じ、全員（100%）が「将来に役立つ教科」としています。また、「学習内容がよく分かる」と97%が回答しています。授業では、「言葉が好ましい人間関係をつくる働きがある」、「自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめる」、「書いた文章の感想や意見を伝え合う」、「物語のイメージ化を図ること」について全てで全国平均を大きく上回る結果でした。



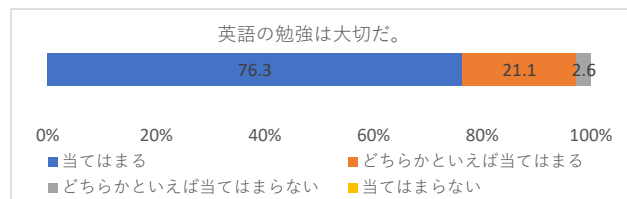
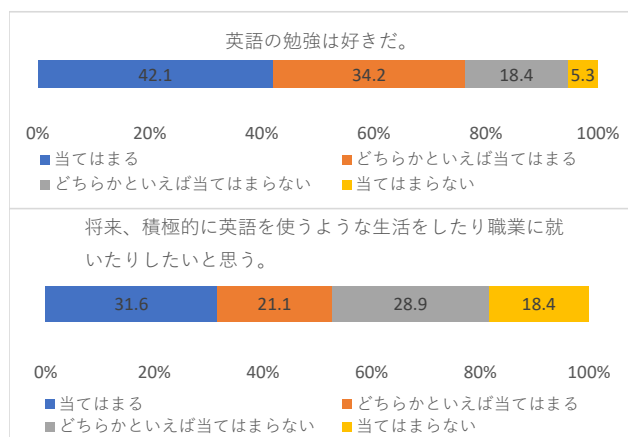
【算数科の学習について】

「算数の勉強が好きだ」と回答する児童は55%で全国平均を下回り、国語科に比べ苦手意識を感じている児童が多いという状況です。「教科の重要性」は97%が大切だと感じ、ほぼ同じ割合で「将来に役立つ教科」としています。また、「学習内容がよく分かる」と79%が回答しています。



【英語科の学習について】

「英語の勉強は好きだ」と回答する児童は76%で全国平均を上回っています。一方で、「教科の重要性」については87%が大切だと感じていますが、全国平均をやや下回りました。「将来、英語を使う生活をしたり職業に就きたいと思う」児童が53%で全国平均と同様の結果でした。



今後に向けて

○子どもの健やかな成長を第一に考えると、「早寝・早起き・朝ごはん」といった基本的な生活習慣についてはご家庭の協力が不可欠です。児童との会話やアンケートでは、朝食を食べずに登校したり、夜更かしをしたりすると回答児童がいることから、改めて教育活動の中で規則正しい生活が大切なことを子どもたちに伝えていきます。引き続き、ご家庭のご協力をお願いいたします。

○全体として子ども同士、子どもと教師の望ましい人間関係が築かれています。その状態を維持するために一人一人を認めるように努め、目的意識をもって活動を最後までやり遂げるための援助、時間を保障しつつ、物事に取り組ませる機会をつくり、成長を支えていきます。

○家庭学習に取り組む習慣は、しっかり身につけさせたいと考えています。休日は平日に比べて家庭学習時間が減少する傾向ですが、中学校進学後の学習活動で求められる意欲を備えていくために、計画的に宿題を課したり、放課後学習を通してわかる楽しさを味わわせたりすることで、1人1台端末（タブレット）で家庭でもAIドリルに取り組める環境整備を一層進める等、自ら学習に向かう意欲の醸成を目指します。

○課題を設定し、思考する場面・考えを交流する場面・考えをまとめ発表する場면을授業の流れに位置づけ、授業改善を進めてきました。これからも学習内容を見通し、自分と他者の考えを比較し、気づきや思考の幅を広げる学習活動を積み重ねさせ、「主体的・対話的で深い学び」となる授業を継続していきます。

ともに子どもたちの資質・能力を育むため、ご協力をお願いいたします。